

戸水寛人 とみづ ひろひと 法理學者、政治家、法學博士。文久元年六月二十五日加賀國金澤生れ、昭和十年一月二十日歿（八六一―一九三五）。幼名幸太郎。號碧洋。明治十九年帝國大學法科大學英法科卒。判事を經く、二十二年歐洲留學、二十七年歸朝、のち東京帝大教授。對ロシヤ強硬論七博士の一人、またポーツマス條約反對の論文發表で休職處分を受け、戸水事件が起きる（のち復職）。四十一年衆議院議員（當選五回）、その後政界を退き辯護士開業。

著書 『古野山林』（明治二十二年七月四日法理研究會、有斐閣書房刊、『法理論叢』）、『溫故錄』（明治二十六年五月二十五日江草芥太郎刊、有斐閣書房・東京堂發賣）、『新國民』（明治二十六年五月二十七日江草芥太郎刊、有斐閣書房・東京堂發賣）、『回顧錄』（明治二十七年六月六日自刊）、『堯舜時代の制度』（明治二十八年一月十八日有斐閣書房『法理論叢』）、『世界の趨勢と自露戦争の結末』（荒浪市平速記、明治二十八年二月十九日有斐閣書房）、『法律學小史』（明治二十九年八月十一日有斐閣書房）、『熱海と五十名家』（公口著・齋藤利堂編著、大正九年十一月二十日靜岡・高永寛明刊、精利堂發賣）等。